

2020年10月18日

「はじめてのキリスト教」説教要約

偶像からまことの神に

(「テサロニケ1:1-10」)

一、偶像って何？

偶像って何なのでしょうか。「偶像」は、主(ヤハウェ)である神がイスラエルの民をエジプトの地、奴隷の家から導き出し、「あなたには、わたし以外に、ほかの神があつてはならない。あなたは自分のために偶像を造ってはならない」と語られたことよって知らされたことばです。このことばは、イエス・キリストという、神であり救い主であるお方を信じた私たちに對する御意思でもあります。

9節の途中からをご覧ください。〈あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり〉とあります。テサロニケに誕生した教会の構成メンバーの多くは、異邦人キリスト者でした。彼らは、偶像礼拝からまことの神礼拝に移ったのでした。

二、テサロニケの教会

テサロニケの教会は、「使徒の働き」によればパウロの第二回目の伝道旅行において誕生しました。パウロはトロアスという港町で幻を見、海の向こうのマケドニア州に行くことが神の導きで

あると確信しました。こうして一行は船に乗り、ピリピというローマの植民都市に入りました。すると、リディアという神を敬う異邦人の女性が救われ、強力な支援者となりました。ところがパウロとシラスは、占いをする女奴隷の主人から訴えられ、牢に入れられてしまいました。が、奇跡が起り、看守と彼の家の者全員がキリストを信じて水のバプテスマを受け、ピリピに教会が誕生しました。

そこから、パウロの一行はテサロニケに行きました。いつものように、ユダヤ人の礼拝施設である会堂(シナゴグ)に入り、十字架にかかり、よみがえられたイエスが救い主キリストであると語りました。すると、ごく少数のユダヤ人と、神を敬う大勢のギリシア人たちが、かなりの数の有力な婦人たちがキリストを信じた(使徒17章)。その直後、ねたみに駆られたユダヤ人たちが、ならず者たちを集めて暴動を起し、パウロとシラスは、信者となった者たちによって夜のうちにベレアに送り出されました。その時の混乱についてパウロは、「テサロニケ人への手紙」の中で述べています。1章6節です。

〈あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に敬う者になりました。〉と。

こうして、パウロとシラスはベレア

で伝道することになりました。いつの間にかテモテも加わっていますので、二人がベレアに到着した後にはテモテがやって来たものと思われまます。ところが、テサロニケのユダヤ人たちがベレアまで押しかけてきたので、シラスとテモテはベレアに残り、パウロだけがアテネに行き、アレオパゴスの丘でキリストのことを語ったものの相手にされず、アカイア州のコリントに行きました。コリントでは1年6か月の間腰を据えて伝道し、教会が誕生したため、コリントの教会員について、パウロは一人ひとりを知るようになりました。その、コリントの地で、「テサロニケ人への手紙」を執筆したようです。

三、ことばだけでなく

2節、3節をご覧ください。〈私たちは、あなたがたのことを覚えて祈るとき、あなたがたすべてについて、いつも神に感謝しています。私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに對する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。〉と、パウロはテサロニケの教会員たちのことで神に感謝しています。

続いて、語ります。4節です。〈神に愛されている兄弟たち。私たちは、あなたがたが神に選ばれていることを知っ

ています。〉と。なぜ、そのように確信したのでしょうか。5節で、〈私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いたからです。〉と語っていることから分かります。すなわちパウロが、キリストを信じることよって救われるというメッセージを語ったとき、ことばを超える働きがあったのです。〈ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いた〉が、そのことを物語っています。聖霊がパウロのことばを用いて、神のことばであるキリストの福音がテサロニケの人々に届いたのです。

伝道は、ことばだけでは成立しません。ことばを超えるもの、すなわち聖霊の働き、神の働きがなければ不可能です。テサロニケの教会員たちは、ことばを超える聖霊の働きに与ったことよって、御霊によつて始まり、御霊によつて完成に向かつていたと言えます。それが、6節、7節です。〈あなたがたも多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に敬う者になりました。その結果、あなたがたは、マケドニアとアカイアにいるすべての信者の模範になったのです。〉と。出発点が聖霊の働きなので、語ったパウロが誇ること、信じたテサロニケの教会員が誇ることもありませんでした。